

## 日本地球惑星科学連合2020年大会における 気象学会主催セッションのお知らせ

講演企画委員会

日本気象学会では、2010年度より日本地球惑星科学連合大会（連合大会と略す）において、会員からの提案に基づき、「最新の大気科学」という名称で主催セッションを毎年開催しております（田中ほか2010；竹見ほか2011；中村2012；五十嵐2013；小池ほか2015；沖ほか2015；米山・竹見2017；中野ほか2018）。2020年度の連合大会（2020年5月24～28日、千葉県千葉市美浜区 幕張メッセ国際会議場）では、以下のセッションを主催セッションとすることが決まりましたので、お知らせいたします（趣旨説明は、気象学会セッション募集締切時点（9月27日）でのものです）。会員の皆様の積極的な発表および参加をお待ちいたします。なお、2020年度大会は米国地球物理学連合との共同開催となっており、本主催セッションを含めて、気象学会共催セッションは、国際セッションとして実施される予定です。

テーマ：東アジアの異常天候・都市災害と気候変動との関わり

趣旨：気候変動は暑熱・強風・豪雨豪雪など気象災害リスクを増す可能性がある。少なくとも局地的な極端気象の多発の背景には、惑星・総観スケールの気象変動がある。昨今、最新の人工衛星観測や数値シミュレーションに由来する高解像データを統計処理することで、大規模パターンと局地的な異常気象を結び付けることが精力的に行われている。また、気候変動の影響評価は水資源、農業、エネルギーなど多方面に及び、いずれも都市を含む地域の行政や産業に向けた適応策に還元されるものである。ただし、そのためには科学者と災害を担当する実務者との密なコミュニケーションが必要であり、また不確実な気候変動の表現についてストーリーラインアプローチなどの工夫も求められる。このように気候変動研究は東アジア域に限っても、地球規模から都市

規模まで幅広く、基礎から応用までと学際的なものである。本セッションにおいては関連研究を分野の垣根を越えて募集し、今後の気候変動研究の展開とその可能性を参加者と共有する。

代表コンピーナー：稲津 将（北海道大学）

共同コンピーナー：高敷 縁（東京大学）

### 参 考 文 献

- 五十嵐康人，2013：日本地球惑星科学連合2013年大会セッション「最新の大気科学：福島原発事故放射能の大気・陸圏輸送，沈着問題」の報告。天気，60，975-976。
- 小池 真，新野 宏，近藤 豊，佐藤正樹，2015：日本地球惑星科学連合2014年大会「最新の大気科学：航空機による大気科学・地球観測研究の展開」セッションの報告。天気，62，55-56。
- 中村 尚，2012：日本地球惑星科学連合2012年大会国際セッション「最新の大気科学：中高緯度大気海洋相互作用と気候」の開催報告。天気，59，926。
- 中野満寿男，和田章義，金田幸恵，伊藤耕介，2018：日本地球惑星科学連合2018年大会「最新の大気科学：台風研究の新展開過去・現在・未来」セッションの報告。天気，65，596。
- 沖 理子ほか，2015：日本地球惑星科学連合2015年大会「最新の大気科学：衛星による地球環境観測」セッションの報告。天気，62，723-724。
- 竹見哲也，新野 宏，三上正男，2011：日本地球惑星科学連合2011年大会「最新の大気科学：大気・海洋・地球環境における乱流の数値解析」セッションの報告。天気，58，721-723。
- 田中 博，山崎孝治，山内 恭，2010：地球惑星連合2010年大会「最新の大気科学」北極圏の気候変動セッション報告。天気，57，517-518。
- 米山邦夫，竹見哲也，2017：日本地球惑星科学連合—米国地球物理学連合同2017年大会「最新の大気科学：海大陸研究強化年—YMC」セッションの報告。天気，64，744。